

平成29年度第2回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

平成30年3月20日（火） 午後3時30分～午後5時30分

2 会場

花巻市生涯学園都市会館3階 第2・第3中ホール

3 出席者

(1) 委員 11名（16名のうち）

中村良則座長、高橋勉委員、宮澤啓祐委員（代理出席：佐藤良介氏）、  
熱海淑子委員、漆沢俊明委員、工藤純委員、鈴木朋友委員、佐藤格委員、  
似内英悦委員、吉田英雄委員、岩淵満智子委員

※欠席者 5名

藤沼弘文委員、佐々木博委員、齋藤俊明委員、下町壽男委員、遠藤章委員

(2) 市・事務局 6名

上田市長、久保田総合政策部長、伊藤秘書政策課長、高橋同課長補佐、  
赤坂同企画調整係長、平石同主任

4 会議内容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

上田市長よりあいさつ。

(3) 座長あいさつ

中村座長よりあいさつ。

(4) 説明

○花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績値（確定）について

（事務局：伊藤昌俊秘書政策課長）

配布資料により説明。

○質疑応答

（中村良則座長）

合計特殊出生率について、右肩上がりにならないと目標が達成できないと思うが、平成24年の1.38という数値から見ると微増となっており、あまり伸びていないようにも思われる。事務局ではその要因をどのように分析しているか。

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

様々な施策を実施しているなかで微増となっている要因については、様々な要因があり、正直分からないというのが本当のところである。しかしながら、合計特殊出生率の算出の対象となる年齢の女性の人口が減少していることは課題と考えている。

(宮澤啓祐委員代理：佐藤良介氏)

重要業績評価指標（KPI）の「企業立地促進制度を活用した企業設備投資額」の金額だが、平成27年度に実施した設備投資について、年度をまたがって設備投資を実施した分の金額を計上していたということによいか。また、立地企業数に影響はないのか。

(事務局：赤坂秀樹企画調整係長)

その通りである。平成28年度については重複分を差し引いた数値に修正させていただいた。新規の立地企業数については、立地した年度に計上することから重複はない。

(宮澤啓祐委員代理：佐藤良介氏)

新規の立地企業数について、事務局で把握しているか。

(事務局：赤坂秀樹企画調整係長)

今日は資料を持ち合わせていないため、後ほど報告させていただきたい。

#### ○市内人口動態の分析について

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

配布資料により説明。

#### ○質疑応答

(似内英悦委員)

石鳥谷地域の転出入について、特別養護老人ホームの関係かとは思いますが、75歳以上の年代の転入が多い理由は分析しているか。

(事務局：赤坂秀樹企画調整係長)

今回の分析は異動に関しての数値のみで計測している。石鳥谷の75歳以上の年代の転入が多い理由は、特別養護老人ホームに入所される方が多いことが考えられる。特別養護老人ホームに入所され、残念ながらお亡くなりになられた方は転出とカウントされない。

(似内英悦委員)

特別養護老人ホームだけではなく、サービス付き高齢者向け住宅に入る場合でも、同様の結果になるということか。

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

今回の分析に当たっては個人情報保護の観点から、名前、生年月日、詳細な住所は消去し、年齢と大まかな地域の情報を岩手県立大学に提供している。詳細な住所までは今回の分析では把握していないため、福祉施設への入所が多かったかどうかはあくまで仮定の話となる。

(高橋勉委員)

25～29歳の年齢区分が近隣他市町への転出が多い理由について、どのように分析しているか。

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

異動数に関しての分析であったため、どのような理由があつて異動したかまでは分析していない。仮定の話となるが、仕事の関係や新居をかまえる場合に近隣他市町のほうが吸引力があるのかもしれないと考えている。そこで、花巻市では、平成30年度から親世代との近居や、居住誘導区域への住宅建築等に関する補助の開始等を行う予定である。

(高橋勉委員)

矢巾町に岩手医科大学が建設される関係で、紫波町まで土地が高くなってきているという話を聞いた。通勤圏内である石鳥谷に注目が集まると思うが、人口減少を食い止めるためにも、働く場所が花巻市内にもっとあれば良いと感じていることから、そのような事業を進めていただければと思う。

(佐藤格委員)

大迫地域からは中学生の子を持つ世帯が石鳥谷に転出していることが多いと感じていたが、今回の分析により数字で裏付けられたと思う。このような分析は様々な施策に活用できる非常に重要なものであると思うが、花巻市以外の県内の他の市町村で同様の分析を実施している例はあるのか。

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

今回の分析は、本有識者会議でご提言をいただき、岩手県立大学に依頼することで、初めて実現した。県内他市町村で同様の分析を行っているかまでは把握していないが、県南広域振興局で把握されているようであればお伺いしたい。

(熱海淑子委員)

県の他市町村で同様の分析を行っているという話は聞いたことがないことから、花巻市の分析は先進的な取り組みであると思う。

(佐藤格委員)

花巻市は高齢者の転入超過があるとの分析であることから、今後医療費の負担が大きくなっていくことが考えられ、まちづくりに影響があるのではないかと思う。盛岡市のベッドタウンとして発展した滝沢市などのように、花巻市の状況に近いと思われる他市はどのような傾向があるか分かれば良いと思い質問した。このような分析は継続してできるものなのか。

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

継続して分析できればよいと思うが、分析手法について検討していきたい。

(漆沢俊明委員)

30歳～49歳の年齢層が北上市に転出超過となっているのは、新居を北上市に建築しているからではないかと考えられる。花南地区などの地価は北上市より安いことから造成すれば売れるはずだが、農業振興地域のため造成するのは難しい。これから東芝メモリの新工場が建設されるため、花南地区はさらに発展していくことが予想されることから、住宅を建てやすくする施策等が必要になると思われる。

(岩淵満智子委員)

花巻市に転居してくる方の多くは、通勤に便利だからという理由が多いように思われる。高橋委員もおっしゃっていたが、花巻市内に働く場をつくることが重要である。

(工藤純委員)

非常に興味深い分析であることから、ぜひ今後も分析を続けていただきたい。先ほど漆沢委員より、北上市に建設予定の東芝メモリの話があったが、金ヶ崎町のデンソーも工場の増設をしており、県南地域に新居を建築しようという方はさらに増えると思われる。今回の分析に加え、男女別の異動や世帯の異動など細かく分析することができれば、花巻市の施策を実行する際の裏付けになることから、さらに良い分析とすることができると思う。また、高齢者の転入超過があることから、高い技術を持った方も中にはいるかと思われる。そのような方々から、高い技術を若い世代に伝えていけるような施策をぜひ実施してほしい。

(中村良則座長)

沿岸地域からの転入が非常に多いが、平成24年から平成29年の分析ということで、東日本大震災というイレギュラーな要素の影響も大きかったと思われる。そ

の影響を考えると、県内他市町村からの転入数は本来であればさらに少なくなる  
と考えられる。分析を毎年継続できれば、誤差が小さくなることから、ぜひ分析  
を続けていただきたい。

(事務局：久保田泰輝総合政策部長)

委員の皆様から貴重な意見を頂戴した。今回の分析は県内でも先進的な事例であ  
るとのことであったが、男女別や世帯数の異動分析や年度別の異動分析などがで  
きれば、さらに分かりやすくなると思う。今後どのようなかたちで分析を継続で  
きるか、手法について検討していきたい。

○花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略第2次改訂版（案）について

(事務局：久保田泰輝総合政策部長、伊藤昌俊秘書政策課長)

配布資料により説明。

○質疑応答

(佐藤格委員)

子育て世帯への施策について、大迫地域には学童クラブが1つしかなく、小学生  
以上の子供がいて、大迫地域以外で働いている世帯には非常に厳しい条件となっ  
ている。花巻市からは学童クラブへの資金面での支援をいただいているが、  
事務局の運営や人材に関してなどソフト面に関して支援をお願いできればと思  
う。

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

子育て世帯への施策の中に「学童クラブ・放課後子供教室の実施」といった、具  
体的な取り組み内容が掲載されている。学童クラブへの支援について、担当課に  
伝えさせていただくので、具体的にどのような支援が足りていないかご指摘いた  
だきたい。

(岩淵満智子委員)

学童クラブの状況は、昔に比べれば格段に良くなっている。学童クラブへの支援  
も重要だが、地域の方々を巻き込んだ地域ぐるみの子育て支援にもさらに力を入  
れていただきたい。質問だが、成果指標に「北海道からの教育旅行をターゲット  
とした旅行会社等訪問数」とあるが、教育旅行とは具体的にはどのような旅行か。

(事務局：赤坂秀樹企画調整係長)

教育旅行とは、小・中学校の修学旅行のことである。教育旅行は予算が限られて  
おり、北海道から予算的に訪問できる地域として東北地方が多くなっている。岩  
手県には年間約2万人の教育旅行での訪問があるため、現在の訪問者数を継続し

て確保する取り組みを行っていくということで、目標を設定した。

(漆沢俊明委員)

修学旅行は東日本大震災の影響で一時的に減少していたが、近年は元の水準に戻ってきていることから、非常に良い目標設定だと思う。

(中村良則座長)

「大迫高校生確保対策事業」が新たに掲載されているが、現在の生徒数などどのような状況か。

(佐藤格委員)

先日、大迫高校生確保対策協議会の会議に出席したが、先日の入試では24名が合格とのことだった。地元である大迫中学校を卒業した生徒だけではなく、花巻市全域から通学する生徒が増加している。

(事務局：久保田泰輝総合政策部長)

大迫中学校からの入学予定者は6名ほどであったと記憶している。岩手県教育委員会は、大迫高校の存続について現状維持の姿勢だが、現状に甘んじず、先を見据えて対策を講じていきたい。

(中村良則座長)

「企業立地促進制度を活用して新規立地または増設した企業数」について、目標値の年間3社というのは、根拠があって設定した目標か。

(事務局：赤坂秀樹企画調整係長)

県南広域振興局では、管内において年間10社の新規立地または増設を目標にしていることから、1市町あたり約2社が目安となる。花巻市としては年度により多少の波はあるが、平均2社以上の新規立地または増設があることから、県南広域振興局の目標を参考に年間3社を目標値とした。

(高橋勉委員)

6次産業化については、進めたいと思ってもなかなか進んでいないのが現状である。個人的に団子を作るなどしている人はいるが、大規模には行えていない。商品の開発については常に考えているが、1次産業に従事する人が儲かる仕組み作りが必要であると思っている。商品パッケージのデザインや、色・形を変えるなど考えなければならないことは多くある。6次産業の推進は総合戦略にも明記されているが、ぜひこのような会議の場で皆さんから意見をいただいて参考にしていきたいので、ご協力をお願いしたい。

(事務局：久保田泰輝総合政策部長)

市としても6次産業化の推進は重要な課題であると認識しており、定住推進課に6次産業推進室を設置し、事業を展開している。6次産業化は1次産業に従事する方が生産物に付加価値をつけて商品を開発することも手段の1つだが、花巻市産の農産物を使用したい方が商品化するという手段もある。その成果が出始めているのが、特区として認定されたワイン・シードルの製造である。また、農業に従事されている女性の方が非常に元気に活動していることから、首都圏の飲食店等の方々とのマッチングやセミナーの開催などの事業も実施している。平成31年度までにすぐに成果が出るかは分からないが、継続して事業を実施していきたい。

(漆沢俊明委員)

物産については情報発信を常に実施していかなければならないが、花巻は発信力が足りないと感じている。情報発信については、民間が頑張るのはもちろんだが、西和賀町のように官民連携でブランド戦略を展開していくことも必要である。せっかく観光客が多くなっても、物産で物が売れなければ、経済的な広がり生まれにくい。

(岩淵満智子委員)

物産もそうだが、花巻市としての魅力を発信することが重要であると私も感じている。友人から石鳥谷地域の「賢治葛丸祭」の観覧を進められたことから、一昨年、昨年と見させていただいたが、非常に良いお祭りであった。地元に住んでいても知らないことがあることから、自分たちの身近な魅力を自信をもって発信できるようにする必要があると感じた。

(中村良則座長)

委員の皆様から様々な意見をいただいたが、2次改訂版(案)について反対の意見はなかったと思われる。非常に意欲的な計画であることから、改訂で新たに設定した目標の達成や、事業の推進のため頑張ってください。

(事務局：伊藤昌俊秘書政策課長)

貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。今回の第2次改訂版策定においては、事業の追加を大きな柱としており、平成30年度予算をもとに改訂版を作成した。来年度以降は次年度に実施する事業を掲載するために、毎年改訂を行うこととしたいと考えている。6月ごろをめどに、実績等を報告する有識者会議を開催する予定であることから、その場で有識者の皆様から意見を頂戴し、掲載事業について検討を行い、年末に改訂版の策定というようなスケジュールを検討しているため、今後ともご協力をお願いしたい。

(5) その他  
特になし

(6) 閉会